常磐毎日新聞
日刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 [illegible]
廣告料金 一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
[illegible]町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 [illegible]
一月十八日夕刊

天氣豫報
今晩は北西の風晴一時曇
明日も北西の風晴一時曇

水臭い酒の
喧しい問題を俎上に
保健の見地から重大視
平署の科學陣を總動員
暴利取締法で締上げる

節米の槍玉にあがつて酒造家は一千石といふ拔打的減石に見舞はれ、販賣系統は混亂に陷つてゐるが、釀造元の本年初夏以來の品不足對策として飲食料理店は相當のストックを行つてをり、そのストック品を後生大事と

小出し にし乍ら水を割つてゐるのか或は酒小賣商が公定價格が設定されて居ぬため、從つて規格が存在してゐぬのを得たりとばかり穴にして水を割つてゐるのか、兎に角彼等の理由は判明せぬが、酒が水つぽく稀薄であるといふ

事實は 隱せない、だから巷の酒談議は「酒の中に金魚が生きてゐる」「今の酒に金魚を入れゝば金魚の色がさめる」とか「酒水」なぞといふ新語もどん／＼生れ、非難の火の手が至る處に擧がつてゐる、この聲に平署でもいよ／＼動き出し、果して水臭いか、水臭いと感ずるのは、酒が

不足し てゐるから水を割つてゐるのだらうといふ先入觀のためか、一應この喧しい問題を俎上に乘せて分析のメスを振ふことになつた、この方法は科學陣を動員し、管內各種の酒を取去しこれを分析して、水分酒精分の檢出を行ひ、これを

表圖に し、この表圖を基礎として、小賣店飲食店から、同種酒を取去し、照合し水分の多いものは苛責なく檢擧する方針である、この場合常識以外に割水をした場合は左黨は水に代金を支拂ふことになるで、勿論暴利取締で締上げるわけである、この分析余談としては酒不足につけ込みサツカリン、或は人工甘味質水を割すぎるために

防腐劑 の混入等も明るみに摘發されるが、これも國民保健の見地から、徹底的に取締るわけだ

工業學校建設の委員八方に奔走
既に資金の目鼻つく
此處數日中に完了か

平市に於ける縣立工業學校の計劃は屢報の如く電氣科及び採礦冶金科を設け郷土の成功者たる三井英一氏の援助に依つて總額五十三萬の內既に四十一萬圓の財源を確保するに至つた爲め不足額の十二萬圓は建設委員が三班に分れて縣內緣故の大會社に夫々寄附募集の手を伸べ折衝を進めた處七萬圓は目鼻がつき最後の仕上げに今一息の處にこぎつけたので更に努力して此處數日中に豫定額に到達せんと八方奔走中である

飼料難に祟られ養鷄育羽數減る
郡下を通じて約四割
業者が結束再生對策

石城郡下を通じ養鷄業は年々長足の進歩を來しつゝあつたが最近飼料の需要難に祟られて約四割の育羽數が減じて居り是れが再生對策のため郡下の全養鷄組合は十五日泉村に於て石城郡養鷄組合を組織し飼料の共同購入及び孵化器その他共同設備の新設を協議し一方縣當局へも陳情することを議了したが現に一例を泉村にとれば昨年十一月の育羽數一萬餘羽が現在は半數の五千羽に充たぬ有樣であると

東日本丸好成績
純益が一萬餘圓

小名濱町東日本漁業會社の東日本丸の初年度成績は總漁獲高十七萬五千圓に達し建造費の年賦償還金二萬圓を差引いても尚一萬余圓の純益を示す好成績振りであると

自作農の維持講習

平市國体事務所に於て廿八日午前十時から市町村に於ける自作農本務擔當主任者事務指導講習會が縣主催で開會されるが右は自作農創設維持事業の改正に伴ひ市町村土地管理による支那事變出征記念自作業維持並に本年度から實施の耕地交換等の事務も極めて複雜化したのでこれが趣旨徹底を圖る爲めであると

銃で毆る
平署に檢擧

內郷村高坂字館野賣炭業鈴木久一郎(四五)は四日午後四時頃豫ねて仲の惡い同村曲山金平(四八)と出會し銃で頭部を毆り全治三週間の傷を負はせ平署に檢擧さる

小名濱支局通信

月下氷人たりし去過の思出
支局長 小野務平

（八）

▽死別が源因で姑や祖母を放り出す△

きん子夫人の死亡後の彼黑澤は全く掩ひ被つて居つた蓋を剝ぎ地金そつくりで全くの倫落の遊蕩兒となつた、公私の別も辨へなく公金でも隙さへあれば費消すると云ふ有樣で遂に後妻でも持つたなればと一年の我慢も出來ず後妻を迎へたがその頃から更に彼の遊蕩振りは足がかゝつた、そして彼は愈々亂行振りが增長する許りであつた。

所が彼の長所は見るからに美少年然として居るが却々の大膽不敵で官廳の大官をば屁とも思はぬ性質で惡く言へば馬鹿ヅルイと思ふ程落ちついて居るので小野町長は何時も秘書役に縣廳とか、內務、大藏とか云ふ方面に引率同行したものである

茲にも彼の虛榮心を亦當ぶり初め洋服から帽子靴の如きハデ迄も町長を凌ぐ品物を以て身を飾ると云ふのだから豪勢である、偶には單獨に上京や出張をすると云ふ裡に忽ち色魔的の手口を初め遂に某館の女中を欺瞞して之を擒にし妻子を忘れて是れに現をつかすと云ふ結果と化し去つた。

當時彼は高橋家からは飛び出し別に一戶を構へて町役場に通勤して居つたが、東京の女中とは別に一戶を構ふる事となり役場の勤務も大弱となり如何に重要の地位に置くと雖も放忍し能はざる事となつた時吾輩を通じて意見をする事になつた。

處が彼れは町役場吏員では當底將來伸る事出來ないからと云ふ一天張りで遂に東京移住を斷行するに至つた。

其移住するはよいとするも彼れには養家として祖先の祭祀を行ふべき高橋家の所有居宅並び宅地をどし／＼賣却して仕舞ふ事となつたのである、それもよいとするが更に高橋家には姑と祖母とがある、姑は六十五才、祖はは八十四才であるが此の兩老をば遂に置き去りとして上京を決行して仕舞つた。

こうなると益々その媒酌人たる吾輩の責任が重大さを痛感して現に祖母は吾輩が引き取つて出來るだけの世話をやいて居る現狀であるが上京後間違つても一度姑や祖母を心配しての手紙が來た事のない彼の人非人なる行爲は聞くものをして顏を顰めないものはない有樣である。

月下氷人たる役目も茲まで漕ぎつけては又難いかなと歎息を漏さぬ譯けには行かぬではあるまいか、そして其後の彼はきん子夫人の遺兒しん子(一四)後妻と子更に第二號の男兒と第二號と七人家族で今日此頃何處にどうして暮し居るかは今猶彼の生活に就て苦勞の種となつて居る、せめてきん子夫人の遺言もある事でもあるからしん子だけでもと思ふが今は老境に明日とも知らず八十四才かの老媼を見守つて彼黑澤の行末を只何とはなしに見送るのみで之を思ふと月下氷人たるの役目も決して樂觀的のものでないと痛感し痛憤もする次第である。（此項完、次回は高木六郎君と永山葉滿子の卷）

精白取締の裏道を行く
等級を落して

平署では七分搗き米の徹底如何を目下調査中であるが飲食店、旅館その他個人で自家用精白し純白米を使用しつゝある向もあり節米徹底について一段と取締に努力する事になつたが此の取締も今まで規則づめには行はず單に注意程度であつたのをこれから違反者は嚴罰で臨まれる筈であると共に精白米取締の裏を行つて中には四分乃至五分搗にして手數を拔き等級の落ちたのを販賣して居る者もあるので是れも注意されて居る

植田の町會 植田

町會は十七日煙草收納所新設其他より十四年度追加豫算三千六十三圓、退職吏員小宅廣喜知氏の慰勞金六百圓贈金、サイレン寄附採納の三件を原案通り可決

大浦の村葬 石城

郡大浦村下仁井田出身根本一巳上等兵の村葬は廿二日午後一時同村小學校に執行

報酬を獻金 石城

郡川部村大字三澤蛭田千吉氏は三澤區長を四年勤續して此程退職したが十四年度分報酬として支給された十六圓をソツクリ國防費に獻金

大陸を旅して （四一）
篠山廉

平壤出發

十月十八日午後二時三十分發にて平壤市にお別れすることゝなる、この日、宿から驛迄で五六町のところ市內見學かた／＼三三五五驛に向つた先着の吾が一行は、驛で一時間程待つて居ると後班が着いての報によればこの旅行中互ひに相前後して同じ見學に渡滿したる大日本女子青年團の一行の隣校第二の志賀なかさんだち、今しもこの市內の見學の途次其颯爽たる容姿に接して來たとの報があつたが、遂ひ隣同志で同じ方面の旅行しながら吾等は異郷で其顔を見るの機なく過したり

黄海道の低平地

汽車は禮成江、南大川などの小河川が緩流する全道一の低平地域を走つて居る、これらの諸川は殆んど水が涸れてゐるが時々大きな水害があるらしい堤塘を崩壞して、附近の耕地を荒した形迹が見える、丘陵は合併後の植林が植えてまだ十年內外位の稚松が、行儀よく茂つて居る、水田が多いが畑地には粟、棉、甜菜が耕作せられ、苹果、梨などの果樹類も栽培されて居る。鑛産も相當の産出あるもの如く途中の各驛に礦石の積出設備がしてある、ことに遂安金山の如きは、數百年前から開山せられ一時年産額三百七十萬圓に達した事もあるさうだ、この地方さそりといふ毒蟲居て体長二三寸一度さゝれると一晝夜位激痛を感じ時に生命さへ奪はれることがあるさうだ、午後九時三十分京城に安着。

主都京城

全土の略中央に位し緯度といへば吾が福島に相當する位置にあり、人口約三十七萬、中內地人十萬四千と稱せられて居るので同胞の多い所だ、しかし殆んど西日本の出身者で東北人などは見受けられないさうだ。

驛前の廣い道を東北に進むと南大門に達する、雄大壯麗な樓門で下部に蔦、かづらがまつはつて古色蒼然たるものがあるこれが全市の中心になつて主要道路が五本の分岐點になつてゐる、太平通りを眞直ぐに北に突き當つた所に、朝鮮總督府がある、この附近諸官衙が蝟集してゐる。

名所舊跡

朝鮮神宮、南山公園の西方の丘陵地を卜して大正十四年十月十五日鎭座祭が行はれた、祭神は天照大神、明治天皇の二柱で境內實に森嚴全土の崇敬を集めてゐる、一行も先づ謹みて參拜、鷄林八道の幸ちと、皇軍の武運長久と祈つた、神域は位置高壯、全市を瞰下し老松參差し殿宇の壯嚴なること自ら人をして胸襟を正さしむ。

春畝山博文寺

大勳位伊藤博文公が日露戰役後第一代の統監として韓國保護のため遺された偉勳を記念し且つ追憶するために建設せる伽藍である總門は慶熙宮興化門を移轉建築したもので今は慶春門といふ本堂は鎌倉時代の禪宗の建築振りに朝鮮風を加味したもので鐵筋コンクーリ二階建約四百坪の建築である境內は老松茂生したる高臺にあり遙に京城市街を展望する景勝地である

平市人事

◎出生

△六間門五員木雄二氏長男克之さん

◎婚姻

△四軒町二丁目下上海居住東亞同文書院教授山田厚氏(三〇)富山縣婦負郡四方町栂野みち(二三)さん

◎死亡

△材木町一八菊次郎さん長男筒井吉春さん(二〇)

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間「なぜ／＼問答」白倉文件
▼後六、二五 講演「印度の織工業と日本」久留島秀三郎
▼後七、一〇 郷土に寄する言葉(錄音)外務省情報部長須磨彌吉郎

町村長總會 石城

郡町村長會は廿四日午前十時から平市國体事務所で總會を開き明年度豫算を附議すると

犯跡を晦す爲め
出征軍人を裝ふ
酌婦に作らせた千人針

小名濱町竹町居住靜岡縣駿東郡富岡村生れ漁夫勝又長吉(三〇)は去る三日同町小港矢內トク方に忍入卅一円五十錢の現金を盜だが其の犯跡をゴマ化す爲め出征軍人を裝ひ餞別や歡送旗等を貰ひ步き馴染酌婦に千人針をつくらせて威張つて居たが數日後同町橫町の飲食店大黑屋に登樓散々呑めや唄への大騷ぎをした揚句歡送旗や千人針を其場に置いた儘逃走したので怪しと睨まれ昨日警部補派出所に捕はれ目下取調中

▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 落語「次の御用日」松福亭松鶴
▼後八、〇〇 連續小說「咲き出す少年群」(上)片山明彦ほか
▼後八、四〇 時局談話「今後の時局を語る座談會」有吉忠ほか

明日の部

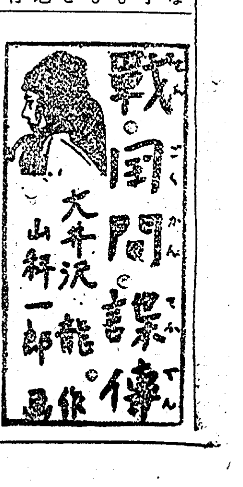
▼前九、四五 幼兒の時間 リズムアソビ「コンコロアラレ」大阪はなびら會
▼前一〇、二〇 家庭講座 時局生活科學「最低の食物と榮養」有本邦太郎
▼前一一、〇〇 小學生の時間「低學年」お話と唱歌「輝く二千六百年」奈良島知堂
▼後〇、〇五 俚謠(廣島)春駒外
▼後二、〇〇 小學生の時間「高等科」小學生の理科「乘りもの」東京市白金小學校兒童
▼後三、〇〇 婦人の時間「母と兵隊」上田廣
▼後三、三〇 教師の時間「卒業期にある小學校兒童の適性指導について」田中發雄
▼後四、三〇 精動特報「節米一割報國運動」小松東三郎
▼後四、三〇 春場所大相撲實況(九日目)
▼後六、〇〇 子供の時間 和賀郡黑澤尻ヶ學校兒童、伴奏阿部萬助、及川登茂治
▼後六、二五 講演「アメリカの科學工業界を視て」中野友禮
▼後七、二〇 郷土に寄する言葉(錄音)工學博士佐野利器(山形縣出身)
▼後七、四〇 中支より
▼後八、〇〇 上海より演藝
▼後八、二〇 (錄音)二分間對話
▼後八、三〇 連續小說「咲き出づる少年群」下 小泉忠ほか

旅舍 大幸舘
私は平市出生ですから特に郷里の皆樣方の爲に御便利を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前（下谷郵便局橫通角）
電話下谷六七七番

産科 婦人科 專門
平市南町
根本醫院
（入院隨時）
【電話三四番】

吸入用酸素 99%純度
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
體温計 寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
◎寫眞材料一式販賣致シマス
關內藥局
電話四〇番

◎診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、補綴槽工科
小兒齒科、槽漏膿科、齒列矯正科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義



戰國間諜傳
大平沢龍 作　山科一郎 畫

第百五十七回

脫出 （四）

何處からどうして手に入れたのか、やがて金兵衞はいろんなものを抱へて彼の潜伏の[illegible]の中にもどつて來た。

その金兵衞の姿を見ると姫は地獄で佛に會つたかの如く悦こんで起き上つた。

「お嬢さま御無附になりましたか」

そう云つて姫の身近く寄つて來て

「さ、刀傷の手當をしてさしあげます。少々御痛みがありませうが、どうぞ我慢遊ばして下さりませ」

傷と云ふものは不思議なものである。あれほど昨夜は、死んでしまひたいと思つた姫も、かへつてそれが一時も早く癒して生きたいと云ふ希望にかられて來るのだつた。だから姫は飛び上るほど痛いその傷の手當をちつと歯を喰ひしばつてこらへた。

「ウ、ウ、」

それでも歯の間から唸りが洩れるのだつた。金兵衞は今更ら乍ら姫の體にうけた刀傷の多いのに一驚を感じ乍らも、それでも甲斐／＼しく、その傷口を燒酎で洗ひ白布を細くさいてはぐる／＼とかたくしばつた。

手當の時は大分痛かつたがすんでしまふとかへつて大分樂になつて來た。痛みが樂になると急に空腹をおぼへるのだつた。

「お嬢さま、さぞ御腹も御空きになつたであろうと、こんなものを用意して參りました。御口に合はぬかも存じませねど、召上りませ」

金兵衞が何處で用意したのか、竹の皮づゝみを出した。それにはにぎり飯が入つてゐた。

金兵衞の傷は極わづかで輕かつたが、姫の體には十八ケ所もの傷が大小とりまぜて、數へられるほどひどい刀傷をうけてゐた。流石にその美しい顔だけには何のカスり傷一つうけず。青ざめた顔色はかへつて[illegible]を增して美しかつた。

金兵衞の何から何までの[illegible]しいこゝろづかひに、ぐつしよりぬれた衣服もとりかへられたが、しかし今起きて步くことは六ケ敷かしかつた。

「お前はこれからどうするつもりかへ」

「はい、これと云つてよい考へもございませぬが、とにかくいつまでもこうしてゐることもなりませず一先づ彌兵衞のところへ參りましてお嬢さまの御養生をいたしませう」

「彌兵衞と云ふのは？」

「それ／＼今迄御話もいたしませんでしたが」

とことわつて、彌五郎の手から捕手の群を逃れて、四日前の夜彌兵衞と云ふ者のところへ逃げて行き其處でその時うけた傷の手當をすると、市中に出て、それとなく姫たちの消息をたづね、ひそかに[illegible]天滿院から本多の屋敷へ連れ込まれたことを知つた金兵衞はこれきつと姫の命が危いと、[illegible]して三日前から邸內の樣子を窺ひ、昨の夜を幸ひに、うま／＼と邸內にしのび込むことが出來た、と一部仔細を語つて聞かすのであつた。

聞いてゐた姫はホツと太息をついて

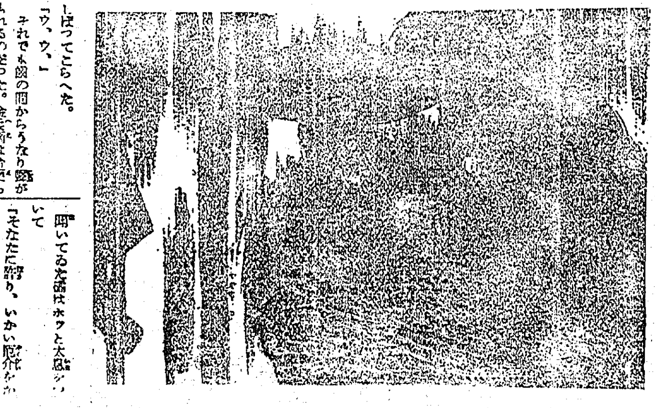
「そなた許り、いかい厄介をかけましたのう。[illegible]の中[illegible]ない。したが、その彌兵衞とやらのうちへ隱れたとて、何時[illegible]をかけるばかり……」

「何に御心配下されますなやうに彌兵衞はなか／＼度胸のある者で、たとへどの樣な目に會ひませうとも必ず身をもつて庇ひくれる者でございます」

其の夜、[illegible]に紛れて、[illegible]しい[illegible]に身をやつした主從二人は、それでもうまく四日前の彌兵衞の隱れ家へたどりつくことが出來た。

もう其の頃は本多からの追手が夫々に散つて市中の[illegible]は嚴しくなつてゐた。

氣がゆるんだのか姫は彌兵衞の家へ連れ來たその日からどつと大熱を出して、姫は瀕死の床についてしまつた。[illegible]を呼んで診て貰ふことは出來ない。其處で[illegible]と相談の結果十日[illegible]寺內に元[illegible]家の[illegible]大谷刑部のゆかりの者で[illegible]と云ふ醫者が住んでゐるのを、たのんで秘かに[illegible]して貰つた。



井戸端會議

妙川奥渡

古くから井戸端會議は川柳などのネタともなつて、常に厄介な存在になつてゐる。むろん、そこには一掬愛すべき愛嬌も存はしてゐるのだが……。

井戸端會議も、市井のおつき合の一つだといふお説がゝりには、一應なるほどと思はれるが、ハメを外したが最後お互ひが自分の亭主やお里をもちだして、[illegible]のはしの上塗りになつては、このおつき合も至極迷惑の沙汰であらう。

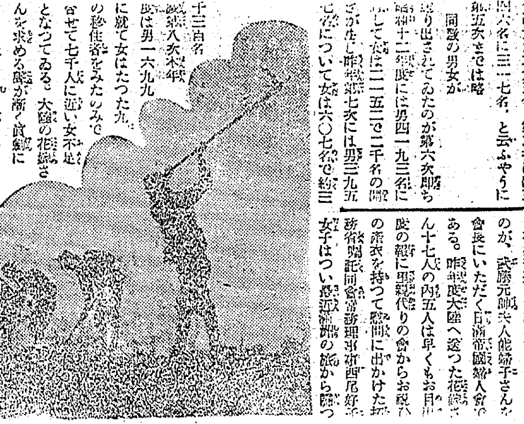
私の知つてゐる女敎員あがりの勝氣な人がこんなことをいつた「あんまり近所の人になれ〳〵しくするもんぢやありませんよ。わたしなど親せつにおつき合ひしたのに、結局、邪魔者のやうな仕打をうけたのよ。くやしくつて……」だが、私は信ぜられなかつたのである。この人自身が話好きなところから、近所の奥さん方のことどもを、噂話の隅をほじるやうに、次々と吹聽したのがもとらしい。朝の挨拶もしないといふが、—これも井戸端會議の罪。もう少し口が愼しめたら、こんな氣まづい目に、あはなかつたのにとしんみりする。

戰地へ贈る慰問袋の打合せを膝つき合せてした奥さんがある。これなどうれしい話である。あなたはお羊かんを、わたしは手ぬぐひをなどと如何にも好ましい。萬事がかうなれば、にらみ合ひもなく圓滿でよろしい。

戰時下の結婚
大陸の求める花嫁
育兒や染色の知識が必要
日滿帝國婦人會に聽く

滿洲事變以後、東亞協同體の同じ理想にむすばれた滿洲國の曠野に移り住む日本人はだん〳〵その數を增して行つたが、いはゆる開拓移民として渡滿した人達は、昭和七年度第一次移民には男が二九三名に女が二九五名、第二次には三四六名に三一七名、と云ふやうに第五次までは略々同數の男女が送り出されてゐたのが第六次即ち昭和十二年度には男四一九三名に對して女は二一五二で二千名の開きが生じ昨年度第七次には男三九五七名について女は六〇七名で約三千三百名、本年度第八次移民は男一六九九に就て女はたつた九〇の移住者をみたのみで合せて七千人に近い女不足となつてゐる。大陸の花嫁さんを求める聲が漸く高調になつたのも無理がない。

かてゝ加へて昨年度から青少年義勇軍に屬する青年男子が三萬人は移り住んだので三年の訓練修了後の昭和十六年には現地で更に三萬人の花嫁さんが必要になる勘定である、と云ふわけで花嫁の斡旋を今まで通り、各府縣の當事者に任せてもおけなくなつた拓務省では、いよ〳〵今年度から本腰を入れ初め◎まづ花嫁の養成機關を作る目的で、女子拓殖講習會と講習會を開いて大陸の認識に努め、花嫁さんに必要な開拓知識、經理・衞生、[illegible]等の[illegible]ることになつた。



かうした動きのかげに「ぜひ私に花嫁さんを世話して下さい」と云ふ現地からの切々たる訴へに接してそこは女らしい心遣ひで三人五人十人と

それ〳〵適當な花嫁御寮を世話しつゞけてゐたのが、武藤元帥夫人能婦子さんが會長にいたゞく日滿帝國婦人會である。昨年度大陸へ送つた花嫁さん十七人の內五人は早くもお目出度の報に里親代りの會からお祝ひの產衣を持つて慰問に出かけた拓務省囑託同會常務理事西尾好子女史はつい最近滿洲の旅から歸つて來た。大陸の求める花嫁さんを西尾女史からきくと——

「今度は滿鐵沿線から遠く滿洲國境方面の開拓移民團廿八ケ所を廻つて來ました。第一次から第三次までは大體落着いて[illegible]てゐますが、それ以後の人達に多くの未婚者です。各地でその土地の花嫁さんや獨身婦人事務員、看護婦さんと膝を交へて座談會を開き、移民者の意見をきゝましたが

彼女達が後續部隊の花嫁さんに寄せる注文は、健康で意志堅固で農業に經驗のあるものと云ふ條件の外に

（一）急激な土地や食事の變化と育兒知識の缺乏から、乳兒の死亡が多いから、できるだけ育兒及び姙娠中の心得を知つて來ること

（二）新世帶はボロ一つないのではじめにも不自由する。不用と思ふ品もすてずにもつて來てほしい。食ひ鹽や洗濯物までさへほしい事がある。

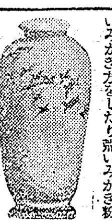
（三）光線が強いので衣服の褪色が甚だしいから染色の知識を持つ事など尤もな助言がありました。現在滿洲の開拓團では花嫁養成の目的で現地に女子青年學校を開いて希望者の入校を待つてゐます。希望者の手で二組まとまりました。この他滿鐵沿線でない彼地の會社事務員から內地のお嫁さんをほしいと今年に入つてから二十人ばかり申し込みがありました。花嫁志願者もボツ〳〵ありますが、まだ〳〵娘さんはもちろん世の親御さん方の大陸認識の程度が非常に低いのぢやないかと思はれます。」

……小ばなし……

「乾物屋へ行きましたが、どこの店でも、卵とお砂糖は、賣りきれだと申しました」

女中が報告すると奥さんが「アラマア、どこかで、よつほど大きなカステラをこさへたと見える」

銀器の手入法



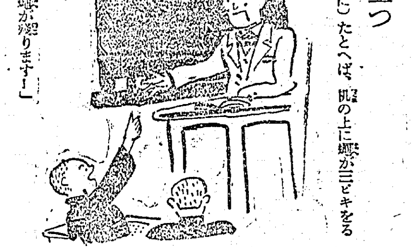
銀製品の手入れ法は第一に、石鹼水で洗ひますと、表面についてゐる油氣とよごれがとれます。次にやわらかい布か毛皮にごく細かな銀磨粉をつけて拭くのです。銀製品はよく光り、つやが出てくると表面の反射がつよいので、手あらいみがき方をしたり荒いみがき粉等を使ふと、かへつて傷が目立つて來ます。スプーン等はまん中がへこんでゐるのでみがき難いが、ピンの口についてゐるコルクを微温湯でやわらかにし、それにみがき粉をつけてコルクの丸い角がスプーンのへこみに當るやうにしてやわらかに拭いてください。

飛び立つ

先生（算術の時間に）たとへば、机の上に蠅が三ビキをるとします。そして、いま先生がそのうちの一ビキを殺したとしたら後に何ビキ殘りますか？」

ちいさい奴

兒童「一ビキです。先生！死んだ蠅が殘ります！」



魚の目が出來た時

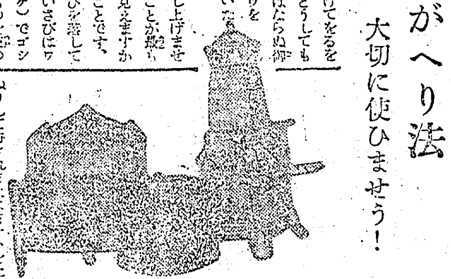
魚の目ができたら、ニンニクの皮をむき、一片を一分あつみの輪切りにして魚の目の上にのせ、これへもぐさをおいて灸をすゑます。これを毎日三回づつ二日もつゞけると、やがてかたい部分がとれてします。たこは、ねぎの白いところを炭火でこげないやうに燒いて熱いうちに剝いてたこの上に貼し當てます、これをいく日もつゞけると、かたい皮がやわらかくなつて、自然に消えてゆきます

古ストーブの若がへり法
大切に使ひませう！

鐵製品の制限を受けてをる折り柄でありますから、どうしてもストーヴを用ゐなければならぬ御家庭では、古いストーヴを活かして用ゐることにいたしませう

その若返り法を申し上げませう、さびのついてゐることが殊にみすぼらしく不體裁に見えますから、その手入れを行ふことです。一應掃除をして後、さびを落して行きます。ごく、ひどいさびはワイヤーブラシ（鐵製ハケ）でゴシゴシ落しますが、輕いものを使つてみがきます。キヤツ油と一緒におとすと一層效果的です。次に磨き上げます

黑い ものは、その上に、[illegible]用の塗料を塗料店で求めて塗り、手に入らぬ時は[illegible]、一寸[illegible]合は黑鉛[illegible]ねりして溶きれまたに南ナ八をたわしのやうにたばねたもので塗りつけ、摩擦を加へると光りが出て體裁がよくなります



他の色ものは稍むづかしくなります。綠色の場合はサンタクロンといふ綠色の塗料とゴールドサイズといふニスを[illegible]のがよいでせう[illegible]にテレメン油でうすめハケぬりをします。銀色の場合はアルミニューム塗料（銀色エナメル）またはアルミニューム粉をゴールドサイズとテレメン油でうすめてもちゐます。これらの塗料は塗料店で求めることができます

ホウロウ製のものは、家庭では、そのまゝの更生は一寸不可能ですから、さ、[illegible]としたのを[illegible]りかへてしま[illegible]

水餅のつけ方

お正月のお餅もたべきれないで何時までもしまつておくと、すぐかびが生へて始末に負へなくなります。一番たしかなお餅の保存法はいたつて簡單で、水道でも寒の水ならいゝのですから寒中によく餅のカビやこなを洗ひおとしてカメに入れ水をそゝいでからほこりの入らぬやうに注意して紙をかぶせ、口をしめておきます。これだけの手數ですが、そのまゝ五月六月ころまでは大丈夫保存できます

毛皮の襟卷は防寒具でない
むしろ春から夏への物か

御婦人の讃仰のまとである銀狐を背負つて街頭を歩く女性が年々多くなつて來ましたが、まだまだ毛皮の知識が不足してゐると思はれます。元來狐にしてもテン、リスにしてもボア！は決して防寒具ではなくむしろ春から夏、秋にかけて用ひるもので、冬は專ら毛皮の外とうを着たいものです。つまりは春、夏の候に何やらくびから肩のあたりは愛想がないのを嫌つて、一寸あしらひにかざりの意味で用ひるべきです。それ故毛皮にかぎらずカチーフを巻くとか花をつけるとかの工夫がこらされるわけです。よく見かけるやうな首にキツチリひつかけて巻いたり、まげたり押しつけるやうなかけ方は、毛皮の味をしらない方のなさることです。當つた部分の毛がすぐすりきれて使用に堪へなくなりせつかくの高價なボアーが臺なしになります。むしろ直接襟首につけぬやうふうはり首すぢをだしてかけ尾は左後肩のあたりから背中になだらかにたらし、すべてゆつたりと卷きたいものです。

時局小說

驀進

士別一樹

北野傳畫

（禁上演映畫化）

第五十三回 友情（三）

[illegible]のやうな[illegible]が[illegible]して聞えると、今度は朗朗たるクツペの音と、それに合せて[illegible]太平洋行進曲の快よいリズムが聞えてくる。それが段々近づいて來たと思ふと、麗子はフツと眼が醒めた。

好枝はもう眼を醒まして、煙草を美味さうに吸ひながら、

「眼醒めたの、わたし何だか今朝までウト〳〵して、よく眠れなかつたのよ、貴女はよく眠つてゐたわね」

「ええ、とてもよく眠れたの。今クツペの音がしなかつた?」

「ええ、通つたわ、わたしそれを聞いて、貴女を起して上げやうと思つてゐたところだつたの、支度をして早く出かけるといいわ」

「ええ、ありがと、ぢや支度をするわ」

麗子は急いで起き上ると洗面所へ行つた。このアパートはまだ誰も起きてゐる氣配がなく、ヒツソリと靜まり返つてゐる。

好枝も起きて來て、洗面所の方へソツと歩きながら、[illegible]んでゐる部屋を珍らしさうに眺めた。

白い洗面器に水を溢れさせながら、新しいタオルを濕し、靜かに顏を拭つた麗子は、生き返つたやうなすが〳〵しい氣持になつた。部屋に戾ると、麗子がお化粧をしてゐる間に、好枝はお湯を沸かしお茶をいれながら

「さうね、今から行くと田端で、上野發八時の急行に間に合ふから、向ふへ着くのは、十時位だわね」

「さうすると、夕方には充分歸れるわね」

「いけないわ、そんなに早く歸つちやあ、それに早く歸れ出來るかどうか判らないもの」

「さうかしら、何だかちつとも判らなくつて心細い氣がするわ」

「だめ〳〵、そんな氣の弱いこと。おや、麗子氏に、もう逢へなくなるのよ、そんなこと言つてゐる場合ぢやないわ」

好枝は寢臺へ手を繼ひながら、好枝は麗子に力をつけるやうに言つた。

間もなく支度が出來上つたので部屋に鍵をかけると、並んで驛の方へ步きながら、

「ね麗子さん、肚を決めて、頑張りするのよ、あの人は絕對に愛慕するに違ひないから、あなたから少し積極的に出なきや不可ないと思ふわ」

麗子には、好枝の言つてゐることとが、おぼろげながら判るやうな氣がして何となく胸がほてつた。

「ぢや行つて來ます」

改札口を入ると線路へ足をかけながら、麗子がもう一度振向くと

「頑張りするのよ」

好枝は手をあげてさう叫んだ。

間もなく電車が來た。扉を開けて窓の方を見ると、ガードの處で何か叫びながら、手を振つてゐる好枝の姿が見えたが、何を言つてゐるのか聞えなかつた。それも間もなく見えなくなつてしまつた。

朝のさわやかな風が、開け放した窓から、强い位に吹きこんでくる。日頃見馴れた風景が今朝は何だか新鮮なやうに感じられ、自分の上づつた心の故だと氣がつくと、また獨りで赤くなるのであつた。

田端で汽車に乘り換へると、麗子は左側の窓の方に腰を下して、四邊を見廻しながらホツとした。列車の中は、ほんの七八人で、勿論見知つた顏もないし、好きな場所に腰を下すことも出來る位空いてゐる。

けれども列車に乘り換へてしまふと、麗子は段々不安になつてきた。恐ろしい運命に向つて、自ら身を投げてゆくやうな、そして最早どうすることも出來ないやうな何とも名狀出來ない不安な感じがするのである。

列車は快よい響をきつて、次第に速力を增してゆく。

彼女は窓際に凭れて、[illegible]けてゆく前々と[illegible]ながら、[illegible]

お醬油はヤマフル

醬油 味噌
たひら正宗
鰹節 食料品

釀造元 鹽屋

福島縣平市
電話一〇 二七番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

花柳病科 外科
木村外科醫院
平市南町(警察署通り角)電話三〇九番

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス

平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

募集
永續者には將來の保證を致します

ボーイさん
◎堅實は營業方針の サロンのお客は當地様一流の方々です
◎色々な方に接することが社交儀禮の實際に學び成功の糸口ともなります

調理見習婦人
◎定評ある サロンの調理法を御傳授いたします
◎見習ひとして調理場に御勤務出來る御婦人に限る

◎14歲以上30歲迄の健康な方…
◎3年以上勤續出來る方…
◎親權者若くは本人御來談下さい。……

平市銀座街 電話592 サロン

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）電話五八番

これは便利!
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へるおちのよい
(美)マルミ粉末石鹼
製造元 平市材木町十一番地 電話(呼)四〇八番

平病院（電六四一番）
平市警察署側（元共濟病院跡）
院主 醫學博士 鈴木定藏

內科	院長	鈴木定藏
小兒科	副院長	土井利明
內科一般 外科 皮膚泌尿器科 レントゲン科 物理的療法科	副院長	高橋俊幸
藥劑科	部長	吉本孝平

◎診療時間 每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備…入院隨時（自炊ノ便アリ）
入院料 一日 特等貳圓・一等壹圓五拾錢 二等壹圓參拾錢

かまぼこ
[illegible]
天保寅
製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
平市一丁目 電話一四一番
◎配達員至急入用委細面談

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は(久)の生命なり

高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平市田町 電話五一三番
內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科
◎看護婦至急募集

シモヤケ家傳藥

是までシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二三回の御使用でクヅレたシモヤケも忘れたやうに完全に治ります。

現今の塗藥は異つた治法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません。又クヅレたシモヤケに塗布と同時に痛みを感じたりカユミを增したり致しますが、此藥は無刺戟の中に心地良い治法により皮下の血行を良くし幼きお子樣方にも喜ばれ如何にクヅレたシモヤケでも完全に治る事保證致します。

【定價四十錢】
東京市丸井邦寶堂
茨城福島兩縣特約販賣
平市一丁目（電話三四九番）
伊藤石炭店

齒科口腔外科
レントゲン科
原齒科醫院
院長 東京齒科醫學士 原 精一
平市土橋通
電話三一一番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）